

海外進学セミナー
海外進学指導の取り組みと課題

関 孝平

Max Kohei Seki

グローバル × 海外進学

グローバル化は国家課題

日本再興戦略： Japan is Back



グローバル人材育成は、政府、企業、大学、中高の共通の課題

「日本の若者を世界で活躍できる
人材に育成する」

今や日本の若者は世界の若者との競争にさらされている。将来の日本を担う若者が、国際マーケットで勝ち抜き、学術研究や文化・国際貢献の面でも世界の舞台上で活躍できるようにするために、まず何よりも教育する側、すなわち学校を世界基準に変えていくことを急がなくてはならない。

(2013年6月14日 『日本再興戦略』より)



教育のグローバル化が急務！！

グローバル化の波が教育界へ

2013年

グローバル教育ゼロ年度

大学

SGU

英語改革

留学

特に大学の動きは目を見張るものがある

高校

SGH

日本語IB

外部試験の
導入

英語教員
留学研修

留学支援

海外進学

第1回
Go Global Japan Expo

グローバル人材育成推進事業
目指せ!世界にはばたくグローバル人材!
～進学・留学・キャリアを考える～

グローバル人材育成に取り組んでいる大学の進学・留学相談会
Go Global Japan Expoは、グローバル人材育成推進事業の中心大学、2013年12月15日
大学の世界競争力強化事業の中心となる、17大学合同の勉強・体験イベントです。
世界の超一流企業、各種試験団体、英語・キャリア教育関連団体等もアースも参加します。

日時 **2013.12.15日**
9:30-18:00

会場 **早稲田大学 大塚記念講堂(大講堂・小講堂)**
小野記念講堂・1号館・2号館

対象 **高校生、保護者、高校教育関係者、
大学生、大学教育関係者、etc**

主催 **早稲田大学 大塚記念講堂(大講堂・小講堂)**
協賛 **早稲田大学 大塚記念講堂(大講堂・小講堂)**
協賛 **早稲田大学 大塚記念講堂(大講堂・小講堂)**
協賛 **早稲田大学 大塚記念講堂(大講堂・小講堂)**
協賛 **早稲田大学 大塚記念講堂(大講堂・小講堂)**

詳細はGo Global Japan Expo
<http://ggj-expo.com>

WASEDA University
2014 Guide Book



早稲田から **WASEDA** へ
大きく羽ばたく人になろう

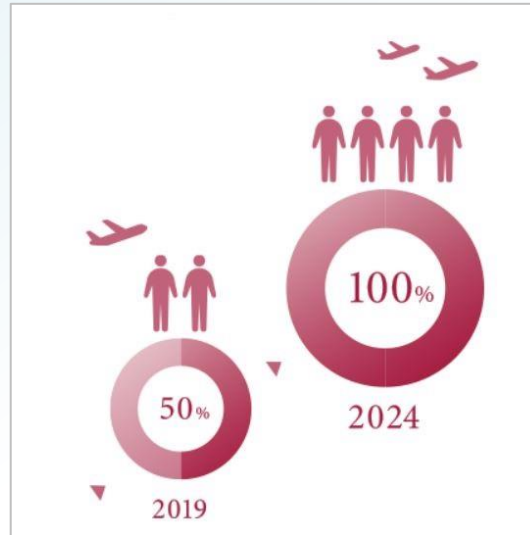
グローバル化が進む社会の中で、広く日本や世界に貢献し、
次代を担う人材が求められています。
早稲田大学には、数多くの素晴らしい人材を輩出してきた輝かしい歴史があり、
現在はグローバルリーダーの育成に力を注いでいます。
世界を視野に入れ、新たな早稲田の伝統を創造していくのは、
これから入学してくるあなたたちです。



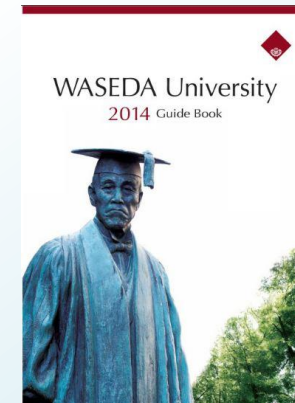
留学熱

留学がヒートアップ

意欲と能力のある高校・大学等の若者全員に、学位取得等のための留学機会を与える



2032年度までに、卒業までに全ての日本人学生が外国へ留学等をする



熱を冷まして考えても、やっぱり留学は今後の重要な課題であることは変わらない

海外進学は「ゴールデンストリーム」

では、どうやって海外進学に取り組むのか

海外進学を阻むハードル

なぜ海外進学は難しいのか

学校

学校の
マインド

進学指導
システム

指導する
教員

ネット
ワーク

これらのハードルを低くすることが
学校として取り組むこと

本人・家庭

本人の
意思

保護者の
理解

学力

経済力

指導できる教員がいれば
対応していける部分も多い

海外進学に必要なマインド

留学の本質を理解する

夢を追い求める場所
自分を変える場所
視界と景色を変える場所
日本の良さが身に染みる場所

留学の本質

- ・ つらいこともある
- ・ トラブル当たり前
- ・ 勉強は大変
- ・ 自分の弱さを知ること多々
- ・ 人とぶつかることもしょっちゅう

でも、ワクワクする、何かある・・・

必要な物

- ・ 夢、本能、憧れ、ぞくぞく感
- ・ 冒険心、チャレンジ精神
- ・ 勉強を楽しむ気持ち
- ・ 前向き変換装置
- ・ 自立性、自主性
- ・ まわりのサポート

想像以上に、
あなたは変わる。



海外進学に必要なマインド

留学の芽を摘まない

保護者

- 留学の可能性を摘まない
- できる範囲のサポートを

本人

- 夢は譲らない
- できる範囲で進めていく

- 保護者と本人でしっかり相談をする
- 担任、海外進学アドバイザーと相談する
- どうすれば夢が実現できるか、一緒に考えましょう



必ず聞かれます

「学校としては何をしてくれるのですか」

まずはどこから始めるか

私の経験より

まず私はこのようなことを課題に考えました

- ① 海外進学を1つの選択肢として意識してもらおう
- ② 個々の教員が海外進学の芽を摘む現状を変えよう
- ③ 「学校として海外進学を支援する」システムと雰囲気を作ろう
- ④ 海外進学を聞かれても答えられる学校にしよう
- ⑤ 一緒に指導ができる教員を育てよう



具体的な目標

海外進学の専門スタッフを作ろう
海外進学ガイダンスを仕掛けよう

海外進学取り組み

1 ニーズの認識 + 開拓

何の数字だと思いますか

80%

意識調査

「留学に興味がある」
110名中90名

1年留学説明会	海外進学ガイダンス	海外4大学が来校
30名参加	65名参加	30名参加

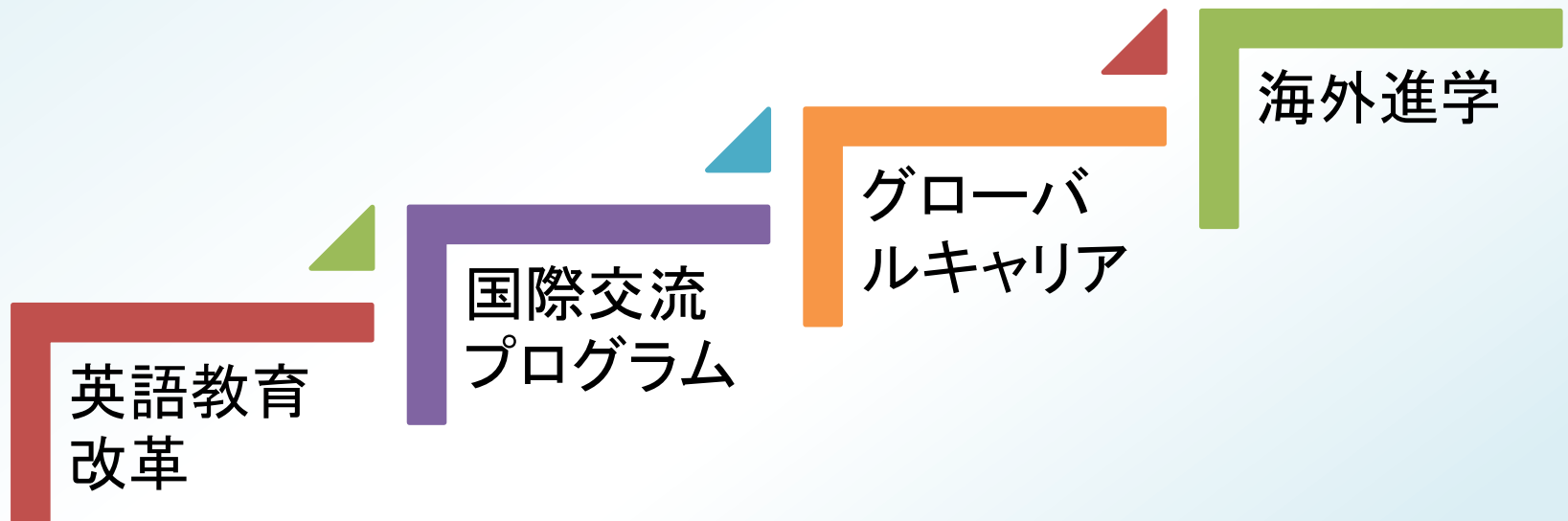
待ってではダメ。潜在的なニーズを掘り起こす仕掛けをする。

海外進学取り組み

2 海外進学的位置づけ

海外進学というゴールだけでなく、それまでの道筋、土壌を耕す

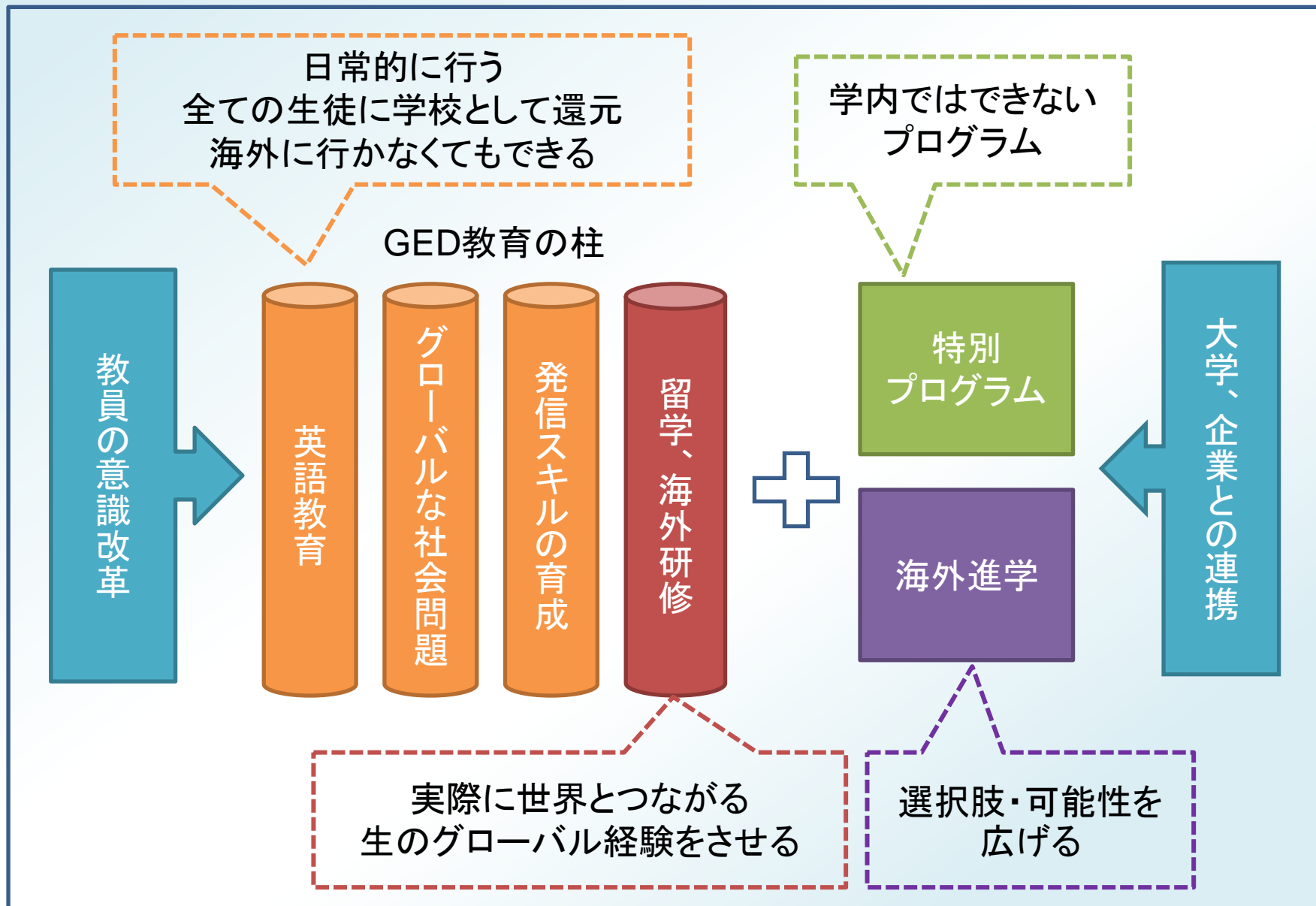
そもそもグローバル教育の充実を図っていますか



生徒のグローバルに対する意識と素養を育てる

グローバル教育のビジョン + 留学政策 + 海外進学的位置づけ

1つのモデルイメージ



海外進学取り組み

3 海外進学の意識づくり

教員です

こんなこと言っていないませんか？

そもそも海外進学を否定

「海外よりも、まずは国内大学に・・・」

学内では何もしない、する気がない

「海外大学って言われても、何も分からないよ」

「うちは海外の生徒への特別対応はできないよ」

ブランドとエリートにこだわる留学

「英語ができなきゃ、海外行ってもね」

「大学ランキングTOP200を目指しなよ」



その生徒の「大切な芽」を一緒に考えてあげましょう

海外進学取り組み

4 専門スタッフの配置、育成

海外進学アドバイザー

高2、高3に1名ずつ配置

- ・ カウンセリング
- ・ 担任サポート
- ・ TOEFL指導
- ・ 業者との連携
- ・ 実務全般 など

「海外進学希望の生徒は必ずグローバルのところによこしてください」

- ・ 担任が海外進学の芽を摘むことがなくなる
- ・ 生徒が安心して海外進学を選択できる
- ・ 学校として海外進学に取り組む姿勢が見せられる

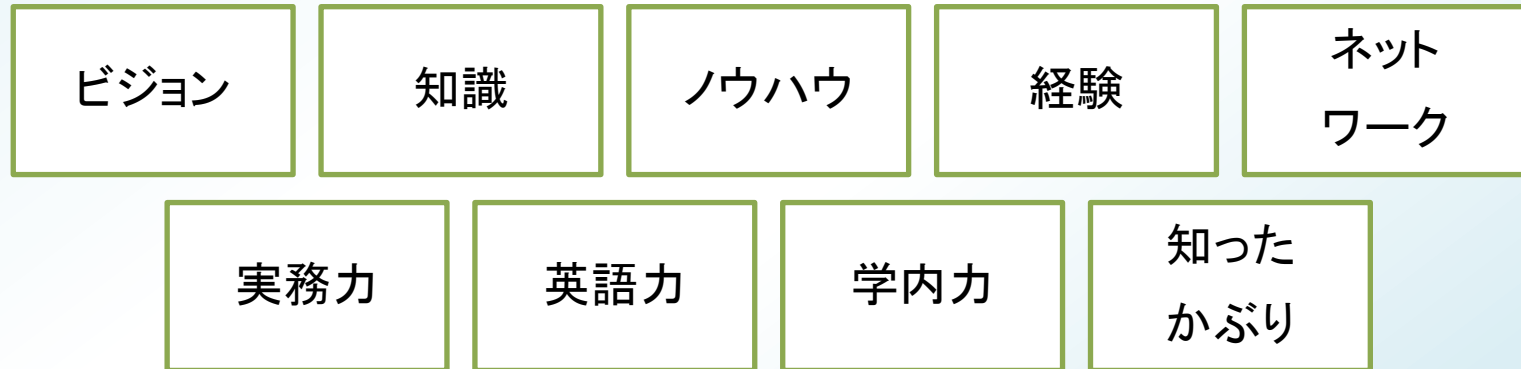
海外進学取り組み

4 専門スタッフの配置、育成

Q: どうやったら海外進学指導ができる教員を育成できますか

A: 極論、学内ではゼロからの育成は無理です。

海外進学アドバイザーに求められるクオリティー



複数指導できる教員を作ることが目標

隣でいつも話を聞いてもらい、仕事を手伝ってもらいながら育てていく

海外進学取り組み

5 ガイダンス&カウンセリング

海外進学ガイダンス

まずは海外進学を知ってもらう
自分の可能性・選択肢に気付かせる

「知らなかったから、気付かなかったから」
はもったいない！

個別カウンセリング

海外進学はすべて個別のケース
希望する生徒を早い段階で確認する

まずは相談。一緒に可能性を考えよう。

学校として主体的に説明し、相談を受けるシステムを構築する

海外進学取り組み

6 マイノリティーに対応する

多様な進路に対応する

マイノリティーであっても、その個人にとって進路の重みは同じ

多くの教員はやはり国内進学しか見ていない
担当者がいかに「海外進学」を校内の意識に植え付けていくか

生徒の立場を代弁してあげる



海外進学と国内進学を等しく捉え
多様な可能性に対応する

進路動向
調査

国内模試
免除

「グローバル」
掲示板

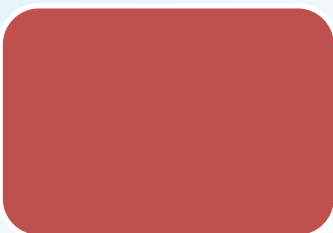
海外指定校
推薦内規

自習室の棚に
書籍スペース

海外進学取り組み

7 イベントで刺激ときっかけを作る

学内で気軽に参加できるイベントを用意する



海外大学
スタッフ訪問



大使館
セミナー



先輩による体験談

先輩からのメッセージ

海外進学した先輩より
R.Y. Ithaca College (アメリカNY州) へ進学

私が海外進学を望んだきっかけ

留学を目的とした進学ではなく、海外一年生に憧れ、オーストラリア留学経験者です。海外のライフスタイルを体感したいという思いから海外進学を決めました。また、アメリカの大学では専攻を入学時に決めなければならないという制度に、専攻の自由度が、それらに満足して自分の進みたい道を勉強してから決めることができることに魅力を感じました。

思ったこと……

——海外生活は、想像以上に毎朝目が覚めずからというものでした。入学の準備に必要科目が履修科目のみでない、多大な準備のペースを要し、それを準備しながら生活まで行かなければならなかったため、海外生活開始前の1年の履修準備に十分な準備が結果として必要になりました。また、日本の大学入試とは違い、履修科目で自分の自分の専攻が明確になっていないので、目標が見えず、履修に迷惑を感じることがあったという思いも持っていました。

私の声！

新しいこと、勉強、友人、サークルなど、すべてのことが新鮮な感じがします。全く新しい環境で生活で大変ですが、日本では考えられないことばかりなので目が覚めます。すべてに挑戦することには、自分のモチベーションが保たれるという点です。海外生活や海外のライフスタイルなど、海外生活が楽しみだけでなく、自分では想像できなかったような視点からのアドバイスなど、新しい世界に挑戦して自分自身の視野が広がることもあります。友人と英語をこたえ合うこともありますが、結果として自分の成長につながることもあります。

大学生活は——準備期間中だけでも大変な作業があります。(例) 、ダイニングホールでバリエーション豊富なメニューの中から、レパートリーがバリエーション、バーガー、肉、ごはんなどです。野菜のこともありますが、太極ヨガです。

先輩のみなさんへ

英語は、留学準備と海外生活に不可欠な要素です。それらの準備が少しも足りない場合には、入学後に苦労することがあります。でも、留学準備の準備を怠らなければ、自分の目標が達成されるまでには、必ず成功するでしょう。英語を勉強するだけでなく、自分の目標達成のために、自分自身で勉強できるスタイルの準備が大切です。留学準備が済んだら、海外生活に積極的に参加して、自分の目標達成のために、自分自身で勉強できるスタイルの準備が大切です。海外生活に積極的に参加して、自分の目標達成のために、自分自身で勉強できるスタイルの準備が大切です。海外生活に積極的に参加して、自分の目標達成のために、自分自身で勉強できるスタイルの準備が大切です。

海外に行った先輩に
たくさん協力してもらいましょう

グローバル教育フェア

海外進学、グローバル教育のセミナー&ブース相談

なんて企画も
考えていました

海外進学取り組み

8 プラニング

高1で仕掛け、高2の秋～冬からスタートしたい

時期	やるべきこと
高2 夏～秋	準備開始： 情報収集、プラニング、学力の確認
高2 秋	勉強のスタート（当然、それまでの土台が大切！） ・目標はTOEFL iBT 80
高3 春～	TOEFL受験： 3～7月は2か月に1回 8月～12月は月1回 SAT受験： 5月、10月
高3 9～12月	エッセイ、願書の用意 受験校の決定
高3 12～3月	願書提出
高3 2月～4月	合否発表
卒業後 4～6月	ビザ申請
卒業後 5～7月	渡航

できれば1年は準備期間がほしい



海外進学取り組み

9 TOEFLを指導する

「毛穴までTOEFLに」

高2 TOEFLガイダンス

- TOEFLの概要、取り組み方について

GSC選択授業

- 高2 週2時間 高3 週4時間

TOEFL放課後講座

- 高2 1月～3月 週3時間

夏休み特別講座

- 合計 72時間 (2014年度)

果たしてTOEFLはどのくらい伸びるのか

生徒のレベル	到達目標
GSC Aクラス	90～100以上
GSC Bクラス	80～90
GSC Cクラス、SJC 上位	70～80
SJC 中位	60～70

学内でTOEFLを体系的に教えられるシステム作り、教員の養成する
英語教育の抜本的な改革を行い、そもそもの英語力の素地を育成する

海外進学取り組み

10 専門家との連携

全て学内で対応する必要はない。上手に専門家の力を借りる

- ・ できない、分からないのに無理してやらない
- ・ いかに責任を持って業者とコミュニケーションをとるか

学校

- ・ きっかけを作る
- ・ 可能性の芽を育てる

専門家

- ・ 具体化する
- ・ 現地との実務をする

きっかけ
情報

カウンセ
リング

学校
選び

TOEFL
対策

出願
指導

学校がどこまでやるべきなのか、学校がどこまでできるのかを判断する

海外進学取り組み

発展編 1: 指定校推薦を上げる

学校の制度で確実に入れる信頼感

余計な費用が掛からない

1人はいると後輩が続く

指導の負担が最低限で済む

学校の広報としても抜群

ただし

- ・ 指導は基本的にすべて学内
- ・ どう生徒を継続的に送るのか
- ・ しっかりと法整備をする
(推薦内規、運用の整備)

海外進学取り組み

発展編 2: 学校リサーチ

自分の留学のイメージを絞らせる、自分で大学のHPを調べられるようにする

どの国・地域にするのか

生徒の希望する条件は何か

生徒の興味、専門は何か

経済的にどこまでが許容範囲か

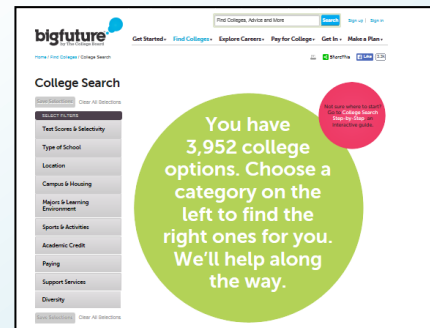
複数のデータソースを使って、リサーチをリンクさせる



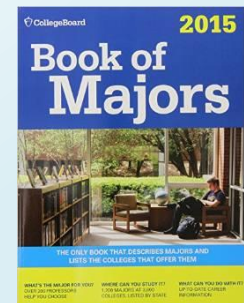
アメリカ大学ランキング



US. News Education



College Board



Book of Majors

今後の課題

まずはできることから

1歩目

まずは自分でできることからやってみる

- ① 教員自身が海外進学セミナーに参加して、雰囲気を見てくる
- ② 「海外進学も1つの選択肢だよ」と、生徒に雑談してみる
- ③ 海外考えている生徒に、「へえ、いいじゃん」と言ってみる



2歩目

わずかな学校の努力でできることをやってみる

- ① 進路の掲示板に外部の海外進学相談会の掲示をする
- ② 進路希望調査に「海外進学」を入れる
- ③ 留学関係の雑誌、TOEFLの書籍を図書館に入れる



一歩ずつ踏み出そう

実際に生徒に指導してみると・・・

モデルシュミレーション



Question 1

生徒と最初のカウンセリング、生徒に何を聞きますか。

Question 2

海外進学を考える高1、高2の生徒に対して、今何をすべきか伝えてください。

Question 3

これからTOEFLの勉強を始めようとしている生徒にアドバイスをしてください。

Question 4

保護者が持つ「海外進学に対する不安」には何があるでしょうか。

Question 5

海外進学をあきらめた生徒に対して何を言ってあげますか。